



事務や経理は、両親や祖父母、妻の担当。「自分は牛の世話と種付けが主な仕事です」と大上さん。



搾乳機で絞られた牛乳は、上部のパイプを通して冷蔵タンクに集められる。



清潔に保たれた牛舎内。



夏の間刈り取った牧草は、ロールにして保存しておく。

自分だけにしかできないものを
ここから生み出して
いきたい。



もくじ

こいびと——表紙の生産者をご紹介
佐伯区湯来町伏谷
大上 翔さん 2

特集
管内農産物の
販売強化に向けて
JA広島市の販売企画マネージャー
奮闘中 4

●JAトピックス 6

まるとJA [第11回]
信用事業(融資) 8

●変わるんJA [第1回] 9

農の現場から
営農指導員紹介 10

松田麗子の
おなかいっぱい、幸せいっぱい
タケノコ 12

健やか生活相談室
予防しよう!
メタボリックシンドローム 14

やさしい菜園プラン
ニガウリ 15

●おしゃべり広場 16

●HAPPY SMILE 16

●クロスワードパズル 17

●JA広島市 情報BOX 18

●ひろしまる倶楽部 & こいぶみ
農家今昔物語 20

本誌タイトル「こいぶみ」とは、JA広島市の気持ちをまっすぐに、組合員をはじめ多くの人に届けるため、広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、多くの人に呼んでもらえる「来い」、情報が「濃い」など、さまざまな意味を含め表現しています。

My History

マイ・ヒストリー

2012年 大学卒業後、北海道へ。
2014年 広島に戻る。
2016年 牧場を継ぐ。

My Hobby

マイ・ホビー

子どもと遊ぶ時間や妻とお酒を飲んでいる時間を大事にしています。



質の高い牛乳を生産し続けるために

現在、牛舎には乳牛や子牛など合わせて約60頭がいる。搾乳は朝と晩の2回。1日に60リットルの牛乳を出す牛もいる。質の高い牛乳を生産するためには、何より「えさ」が大切だ。春から秋にかけて近くの牧草地で刈り取った牧草、海外から輸入した牧草、さらに配合飼料を最適にブレンドし与えている。「給餌機の動くスピードによっても、乳脂肪分の量が変わります」

えさの配合は種付けの成否にも影響する。乳牛は、子牛を産んでから2カ月後に牛乳生産量のピークを迎える。その後は徐々に減り始めるため、1年に1回種付けし、年間を通じて搾乳できるようにしている。乳牛の頭数は、和牛を種付けすることで調整している。1頭1頭のサイクルを考えたとしても、牧場全体としての牛乳生産が滞らないように調整することも考えなくてはならない。

チャレンジが
いいものを生む

「牧場を継いだときは、このまま潰れてしまうかもしれないという不安がありました。昨年からは、よく軌道に乗り始めました。今後は、経済状態などに左右されない自分らしい「コト」や「モノ」を生み出していきたいと語る大上さん。グランピングイベントを開催したり、友人と共同で音楽イベントに出店したりと、さまざまな方面に興味のアンテナが向いている。さらに、将来的には子牛肉の出荷も視野に入れている。「祖父や父が酪農を営んでいたとはいえ、自分は酪農に関する知識や経験があまりありませんでした。より良い「コト」、自分だけしかできない「モノ」を生むためには、変化することを恐れず、どんどんチャレンジしていく。その姿勢は持ち続けていきたいですね」

酪農で生活するために
必要なこと

「酪農で利益を出すためのポイントが3つあります。牛を殺さない。種を付ける。適正な数の育成牛を抱える。これができるいれば、牧場として続いていきます」大上さんは、祖父の代から続く牧場を継ぎ、20代にしてその経営を安定させた秘訣をそう語った。「牛は、毎日大量の牛乳を出

し続けるので、どうしても体への負担が大きい。また、種付けと育成牛の確保を怠ると、やがて牧場は縮小していきます。私自身は、何があってもこの3つを優先させています」

現在は経営も安定してきたが、大上さんの「酪農人生」が最初から順調だったわけではない。大学の経営学部を卒業後、これといって進路が決まっていなかったため、「とりあえず牧場を継ぐ」と宣言。父の知り

こいびと——表紙の生産者をご紹介
大上 翔さん
(28歳) 佐伯区
湯来町伏谷

湯来町伏谷。幹線道路から緩やかな斜面を登っていくと、赤い屋根のサイロが見えてくる。「あれは祖父の代に作られたものです」と大上さん。ホルスタインが人懐っこい顔をこちらに向けて横で、酪農への向き合い方を語っていた。